

## 自転車利用実態定点調査報告

平成27年 5月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成27年4月27日  
[午前]9:00～10:00

**調査場所** ・ 白金幼稚園前 (庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から70m程の上り坂)

**概要** ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m  
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])  
調査対象外(反対側上り歩道)



上り線車道	歩道		←	対象外 対象エリア
	←直進・右折レーン		}	
	←直進レーン			
	←左折レーン			
	←左折レーン			
	歩道	↑		
		白金幼稚園		

**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車走行実態調査結果表

No.	走行空間			車種	乗込	危険運転行為								
	歩道	車道中央	車道			歩道	車道中央	車道	歩道	車道中央	車道	歩道		
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														

調査日時：	平成 27 年 3 月 23 日
実施：	調査員
調査時間：	10:00 ~ 11:00

＜調査票＞

[コメント]

◎走行空間においては、左側車道走行率は、19%であり、また、車道中央走行率は、24%、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の約 6 割を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む) は、肩に荷物(13 件)・片手運転(6 件)・立ち漕ぎ・脇見運転(各 2 件)・過積載(1 件)の順となっている。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の 4/28 午前)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・左側車道走行率

今回(19%)に対し、前回[\*1 (19%)]と、同様である。

上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・19%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・15%)の、1.3 倍程度である。

\*1 平成 27 年 3 月分のデータであり、下段以降の前回表示も同様のデータを示す

・子乗せ自転車

今回(10%)に対し、前回(6%)の約 2 倍である。

上り地点(10%)に対し、下り地点(14%)の約 7 割の水準

・電動自転車

今回(20%)に対し、前回(15%)の 1.3 倍の水準である。

上り地点(20%)に対し、下り地点(24%)と約 8 割の水準

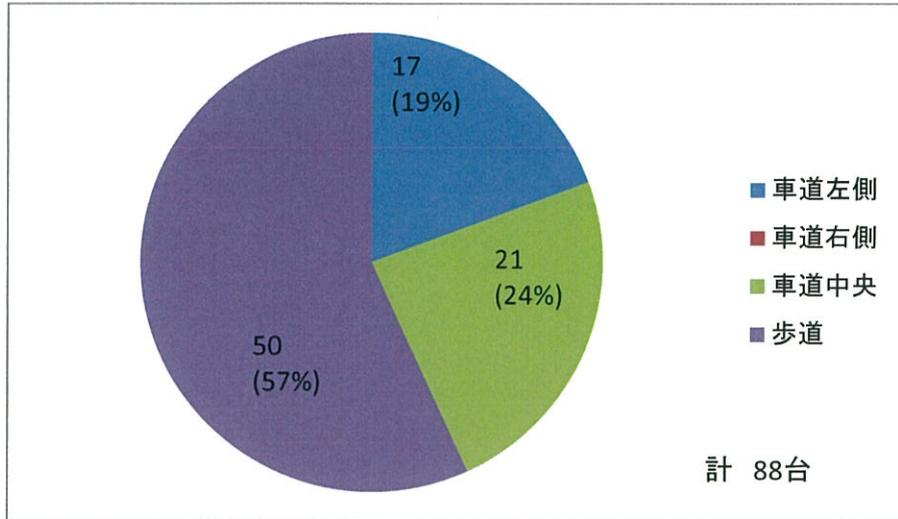
・危険運転行為 (違反行為を含む) 上り地点の [肩に荷物・片手運転・立ち漕ぎ等] に対し、  
下り地点では [肩に荷物・片手運転・脇見運転等] と、ほぼ同様の内容となっている。

また、今回も上り地点と下り地点に対しての電動自転車の割合が、前回(60%)の水準から 80%の水準へと上昇した。

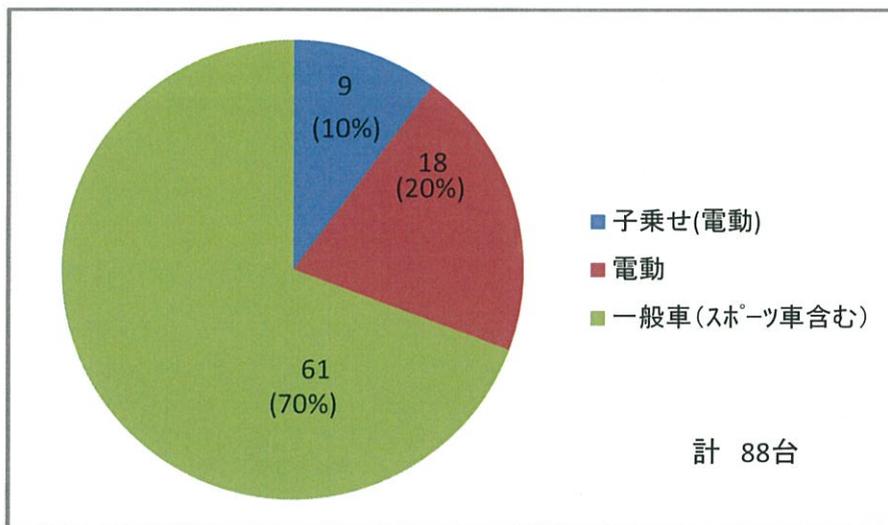
今回も上り坂であるが故の電動自転車の割合が、増加(歩道上)したためである。

また、中央走行者については、依然として電動自転車を使用しておらず、結果として使用割合の低下の一因となっている。

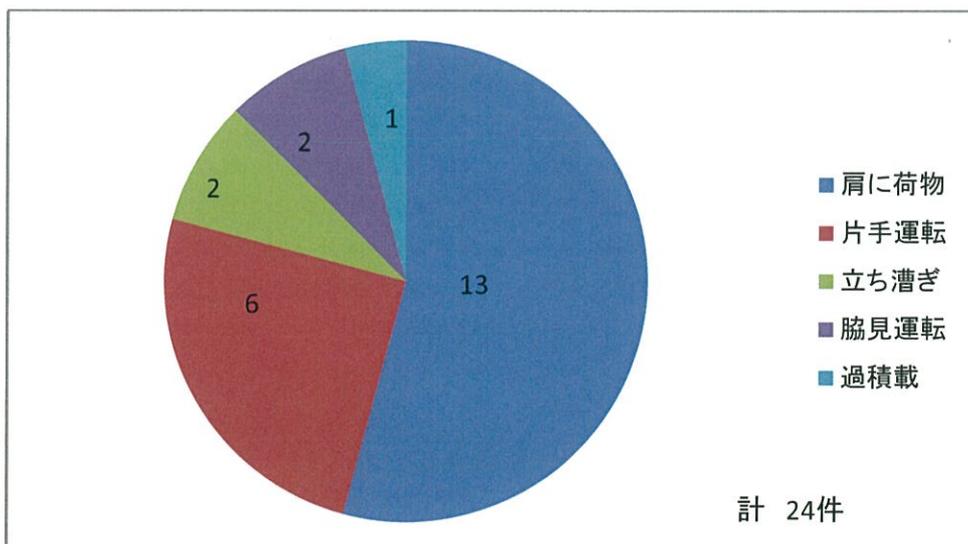
さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。



走行空間



車種



危険運転行為 (違反行為を含む)